結婚式場を全国展開

グローヴエンタ

岐阜で2店開業 3年後21店舗に

北海道と東北を中心に結婚式場を運営するグローヴエンターテイメント（札幌市）は全国展開を進める。直営と受託運営の両面で展開する。まずは今夏に岐阜県で2店舗の運営を始める。ほかに、沖縄など西日本を含む複数の事業者との間で受託運営の交渉が進んでいる。2017年2月期末で直営・受託合わせて12店舗だったのを、20年2月期には21店舗に増やす計画だ。

このほど運営権を取得したのは、いずれも岐阜県内の結婚式場「カノビアーノクラシコ」（岐阜市）と「トレゾアアペオニー」（各務原市）の2施設。岐阜市の施設はグローヴエンタのブランド名を付けて「センティール・ラ・セゾン岐阜」と改称し、7月から運営を始める。後者は名称を検討中だが、8月から運営を始める予定だ。

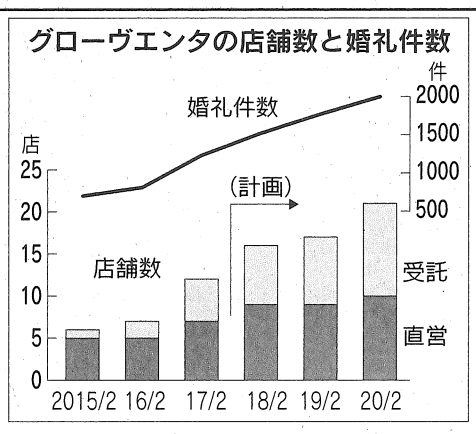
両施設とも土地と建物は地元のオーナー企業が所有し、グローヴエンタが運営を担う。オーナー企業側が運営委託を要請し、グローヴエンタが引き受けた。

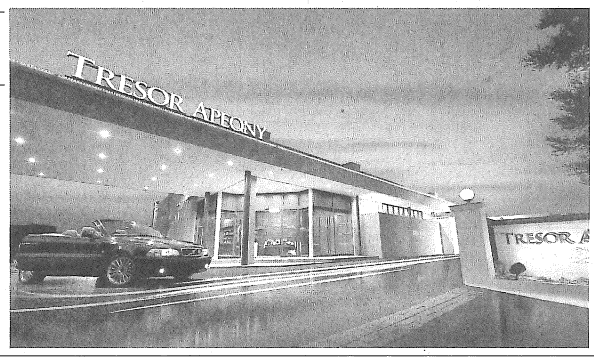
人口1千人に対する婚姻率の低下や式を挙げないカップルの増加で、結婚式の件数は減少傾向にあり、式場間の競争が激化している。グローヴエンタは新郎新婦と面談し、きめ細かく要望に応じてプランを立てるオーダーメード型の結婚式運営に強みを持ち、業績を伸ばしている。

16年から運営を始めた盛岡市の式場では、結婚式の開催数を年20回から100回へと増やした。同市内だけでなく、周辺地域からもカップルを取り込んでいる。岐阜の2施設も現状は計年50件の挙式数を、1年後には同130件、2年で180件まで引き上げる計画を立てている。

地方の結婚式場の運営に実績を持つグローヴエンタに経営再生を打診している式場やホテルは、岐阜を含め全国に複数あるという。同社は採算性などを考慮しながら直営と受託運営の両面で全国展開を進めていく考えだ。18年中にはさらに、2～3拠点の運営を始める見通しだ。

同社は16年2月に盛岡市の式場を買収。同4月には栃木県那須町のホテルの婚礼施設の運営を受託して北関東に進出したほか、同9月には富山県高岡市のホテルから婚礼部門のマーケティングと営業を受託し北陸にも展開した。17年2月期の売上高は27億円で、3年前と比べ倍増した。





運営権を取得した「トレゾアアペオニー」（岐阜県各務原市）

医療ジェット 来月末から

高度医療機関に患者搬送

知事表明

高橋はるみ知事は26日の道議会一般質問の答弁で、過疎地などの患者を都市部の病院に搬送する国内初の医療用ジェット「メディカルウイング」を、7月末から運航する方針を明らかにした。心疾患や脊髄損傷などの患者を高度専門医療機関に短時間で搬送する環境を充実につなげる。

高橋知事は「メディカルウイングは広域分散で医療資源の偏在が著しい道において、必要な医療が提供される仕組みとして極めて有効だ」と導入の意義を強調。その上で道医師会や札幌医科大学などと連携し「7月30日から運航を開始することを目指した。

医療用ジェットは遠距離でも短時間で患者を搬送できるのが強み。地域医療機関で対応できない高度な治療を必要とする入院患者が対象で、救急出動は従来通りドクターヘリを活用する。

道医師会などでつくる「北海道航空医療ネット」は1～13年度に試験運航し、小児や妊産婦ら85件の搬送を実施。道は一定の医療効果が見込めるとして17年度予算に約8000万円を計上した。国も半分を補助する。

道は同研究会に事業を委託し、運航は中日本航空（愛知県豊山町）が担う。愛知県営名古屋（小牧）空港を拠点に複数の機材を活用する方向だ。原則として道内で患者を搬送するが、治療内容によっては道外の医療機関と運航することも見越して入れ

JICA、道内2社採択

中小の海外展開 需要調査に補助

国際協力機構（JICA）北海道国際センターは2017年度の「中小企業海外展開支援事業」の対象に、防雪柵大手の理研興業（小樽市）と計測制御システムのハイテックシステム（恵庭市）を採択した。海外での新たなビジネス展開に向けた需要調査などに、300万円を上限に補助する。中小企業の海外進出を支援し、併せて発展途上国の課題解決にも役立てる。

理研興業は防雪柵のキルギスへの展開を目指す。JICAによると中央アジアの山岳国である同国は冬季に雪崩や吹雪が起きることが多く、物流網に影響が出ることがある。理研興業は防雪柵開発のノウハウに加え、吹雪での雪の積もりかたをシミュレーションできる風洞実験設備を持つことが評価された。

ハイテックシステムはラオスでの水力発電所保守支援システムの展開を狙う。同国は東南アジアの中でも水力発電が盛んで、周辺国に電力を輸出している。発電所の新設計画も多い。同社のシステムは発電所の稼働状況を「見える化」してトラブルを未然に防ぐもので、北海道電力の水力発電所などで導入実績がある。電力の安定供給を目指すラオスにビジネスチャンスがあると判断した。

釧路の夕日 世界に発信

写真コンテスト、外国人参加促す

「世界三大夕日の街」の一つとされる釧路市の夕日ファンづくりに取り組む市民団体、釧路夕焼け倶楽部（釧路市）は海外への発信を強化する。2016年度に初めて実施した「世界三大夕日の街釧路フォトコンテスト」に、17年度は写真共有アプリ「インスタグラム」の部を正式に設ける。外国人観光客にも釧路の夕日の撮影を競ってもらい、世界に発信する。

コンテストの作品は7月上旬から18年1月下旬に募集し、同2月に受賞作品を決める。16年度は写真や動画を中心とする一般の部が主体で、計327作品の応募があった。インスタへの投稿を対象とする選考も試験的に実施したが、外国人の作品はなかったという。

今回は外国人観光客の参加を促すため、インスタへの作品投稿を呼びかける英語や中国語のパンフレットを配布。検索のためのハッシュタグの付け方なども説明する。

併せて、夕日の撮影スポットである幣舞橋の歩道が冬場は降雪で狭くなり、外国人らが撮影を敬遠する要因になっていることを受け、同倶楽部はボランティアで除雪隊を派遣する方針

北洋銀、アリババと提携

取引先の海外展開支援

北洋銀行は26日、中国・中央）と提携し、取引先の海外の販路開拓を支援する。同グループが運営するインターネット「アリババドットコム」を紹介する。道内企業の海外展開を支援をする。

7月1日に業務提携し同3日から紹介事業を始める。アリババドットコムは世界最大級の企業間取引サイトで、世界240カ国以上の国・地域のバイヤーが利用する。

企業が商品やサービスをサイトに掲載し、それを閲覧した世界各国の商社やメーカーが出展企業に問い合わせ、商談をする。サイトへの出展料は月13万円。出展企業はアリババの担当者から、掲載や商談の仕方などについて助言を受けられる。

北洋銀は中小企業の海外展開支援に力を入れており「オンライン上の商談会といえるこのサービスを使い、低コストで海外展開につなげてもらう」考えだ。

7日にはアリババ担当者による「海外販路拡大セミナー」を開き、同サービスを周知する。

IT起業家向け 札幌でセミナー

中小機構など来月1日

中小企業基盤整備機構北海道本部はIT（情報技術）関連の起業家や起業志望者を対象としたセミナー「IT×事業スタートアップカンファレンス@札幌」を、7月1日に札幌市内で開く。実際に札幌で起業した経営者が自身の経験を語るほか、事業展開に必要となるIT活用術について説明する。参加は無料で、20～40人程度の来場を見込む。

日本中小企業情報化支援協議会（JASISA）との共催。共用工房「ものづくりオフィスSHARE」を会場に午前11時から開催する。いずれも札幌に本拠を置く、アイデア食品・雑貨の肉ソン大統領やダイレクトマーケティング（DM）企業のフュージョン、経営支援のフェリクシードの経営者らがパネル討論をする。

地域情報ヘッドライン
―日経電子版紙面ビューアーから

- 東北　オキアミのイサダ活用で三陸振興
- 北関東　古民家が変える水郷潮来観光
- 中部　日本特殊陶業、タイにセンサーの工場
- 北陸　富山のエゴマ油、本場イタリアへ
- 四国　JR四国、沿線活性化へ「マチカツ」
- 九州　宮崎県、大型クルーズ船へ油津港整備

▶朝刊・夕刊→地域経済（有料会員向け）